

北海道の食品工業に関する調査

調査概要

北海道の農林水産業・食関連産業は素材供給型の生産が主体のため、全国に比べ、付加価値率が低い状態が続いています。利益率の高い農林水産業・食関連産業へ発展させるためには、6次産業化を促進するとともに北海道のブランド力を活かし、付加価値を高めることが重要です。

第9期北海道総合開発計画では、付加価値を最大化する生産供給体制の構築として、生産・加工・流通等の川上から川下まで関連産業が一体となるような取組を重点的に行うこととしています。

●令和6年度の調査

- ①北海道の食品工業における付加価値の現状を把握するため、道内関係機関へのヒアリング調査を行い、付加価値率の低い理由を取りまとめました。
- ②①の結果を踏まえ、付加価値率を上げるために必要な取組について考察しました。

※付加価値率とは、製造品出荷額等に占める付加価値額の割合

令和7年度の調査内容

令和6年度の調査結果から見えてきた、北海道の食品工業の課題を更に検討するため、以下の視点と方法にて調査を行いました。

付加価値率の低い要因 (令和6年度調査結果より)	追加調査の視点 (令和7年度調査内容)	調査方法
・本州への輸送コストが高いため。	(1)道内で加工した製品の道外への輸送実態	・移出実態調査報告書の分析 ・道内の食品関連企業等へのヒアリング
・北海道は消費地が限られており、食品の消費が少なく、大手の食品関連業者が少ないため。	(2)農業者を支えるJA・道内中小企業の販売戦略	・道内の食品関連企業等へのヒアリング
・北海道は食品の原料供給基地であり、原料を大量に生産、出荷する産業構造であるため。また、そのことにより薄利多売となるため。	(3)道内での加工割合(道産農産物の利用方法(加工用)の経年変化)	・移出実態調査報告書の分析
・1次加工や低次加工のものが多いため。 ・野菜や水産の加工場が少ないため。 ・多品種少量生産の形態の工場が多く、機械化が上手く進められないため。	(4)北海道型の加工工場の特徴(最近の工場整備の動向、裾野産業の数等に注目)	・新聞等の公表情報の分析 ・生成AIを使用しての調査